

第36回 先端医療センター Monthly Lecture

参加
無料

多くの研究機関や関連企業が集積し、クラスターとしての体制が整いつつある神戸医療産業都市における次の課題は、意見交流の場を様々な形でつくりだし、関係者の縦横の協力関係を構築し、最近の研究開発をめぐる大きな変化に対応する体制を作り上げることです。その一つの試みとして、優れた研究者による講演会を定期的で開催し、交流、協力関係構築のきっかけを提供したいと考えております。

学会や交流会は盛んに行われており、最新のトピックスを伺う機会は豊富にあります。優れた研究者の一連の研究の歩みや領域全体の研究の流れを伺う機会は多くはありません。そこで、本レクチャーシリーズでは優れた研究者をお招きし、十分な時間を取って一連のストーリー、考え方、研究に対する思い入れをお話しいただきます。約2年ぶりの開催となりますが、皆さまのご参加お待ちしております。

先端医療センター長 鍋島 陽一

2018年 1月12日 金 16:30～18:30

会場 神戸臨床研究情報センター (TRI) 2階 第1研修室

■ 講師 吉田 稔 先生 理化学研究所 環境資源科学研究センター
ケミカルゲノミクス研究グループディレクター及び
創薬・医療技術基盤連携部門長（兼務）
東京大学大学院農学生命科学研究科 教授



■ 演 題 天然物を出発点とする分子生物学
－化学と生物の狭間での苦闘－

■ 講演内容

抗生物質の発見は、人類に幸せをもたらした20世紀の大発見の一つに数えられている。これは同時に天然から生理活性物質を探索し、構造決定し、そして医薬品へとつなげる天然物化学という研究分野を創出し、フレミング以降これまで7人のノーベル賞受賞をもたらした。しかし、画期的な天然物の発見の裏で、それらがどのような標的分子に対してどのような仕組みで作用するのかを分子レベルで明らかにすることは困難を伴う研究であった。そのため、膨大な種類の天然物の中で作用機序が分子レベルで解明された例はごくわずかである。演者は大学院時代に出会ったトリコスタチンAという化合物に魅せられて以来、さまざまな天然物の作用機序を明らかにしようとして天然物化学と分子生物学の間を彷徨ってきた。失敗も多かった一方、HDAC、CRM1、SF3bなどユニークな標的分子の発見と新たな創薬の流れを導く幸運にも恵まれた。しかし、出会う化合物によって研究対象が変化するため、生涯にわたって専門分野を持たない研究者になってしまった。それを反省しつつも、化合物探索を出発点とする生物学の面白みをうまく伝えられれば幸甚である。

■ お申込み

参加を希望される方は、事前にEメール (monthly-sanka@fbri.org) にて、氏名・所属・メールアドレスをお知らせ下さい。当日参加の方も歓迎です。

※ご連絡いただきました氏名、所属、メールアドレス等の情報は、先端医療振興財団が管理し、イベント運営上の各種連絡、情報提供のために使用させていただきます。

■ お問い合わせ

公益財団法人先端医療振興財団
Mail: monthly-sanka@fbri.org
TEL: 078-306-0708